

令和2年7月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和2年7月27日（月）午後13時～午後13時40分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、山形新聞、米澤新聞、読売新聞、毎日新聞、河北新報、
置賜日報、YTS

<市> 市長、秘書広報課長、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 市独自で県外からの宿泊客を呼び込むキャンペーンを打っている中で、国が実施予定のGoToキャンペーンについての見解をお聞かせください。（適切か、不適切か）
- (2) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和2年度7月の定例記者会見を開催させていただきます。初めに、市長から発言がございます。

○市長

ご苦労様です。7月における定例記者会見の質問は、「市独自で県外からの宿泊客を呼び込むキャンペーンを打っている中で、国が実施予定のGoToキャンペーンについての見解をお聞かせください」ということでありました。

まず宿泊業についての現状であります。宿泊事業者は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、3月以降売り上げが大幅に落ち込んでおり、4月25日から5月10日までの緊急事態宣言による休業要請で、ゴールデンウィークを含む期間中の売り上げが皆無となるなど、危機に瀕しております。第1弾のキャンペーンとしまして、5月21日から6月14日まで、市民限定の宿泊キャンペーンを実施しました。温泉旅館を中心に、3,639泊の実績となっており、一定の成果をあげたものと思っておりますが、市内ホテルやペンションへの波及は限定的であることに加え、キャンペーン終了後の予約状況については未だ厳しい状態が続いております。

そこで、山形県の県境を越えた移動の自粛要請が6月1日から解除されたことを受け、第1弾のキャンペーンに引き続き、宿泊事業者の関連事業者への支援のため、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を確実に実施したうえで、第2弾の宿泊キャンペーン事業を7月16日から8月31日まで実施するというようにしております。

た。そこに国の GoTo キャンペーンが前倒しをして7月22日から始まることを受けまして、同じようなことになってしまう状況でした。この GoTo キャンペーンと市の第2弾のキャンペーンをどのように連携をさせ、より多くの皆様にご利用いただくか、市としましては、国が当面 GoTo キャンペーンの35%を助成するということによりまして、市が15%を上乗せし、ご利用者の自己負担を50%にすることで、米沢市は8月1日から取り組むことにしているという状況でございます。

こういったことで、市の事業も先ほど申し上げましたように、6月1日から県境を越えた移動の自粛が解除されたこともありまして、感染状況もある意味地域によって第2波が来ているのではないかというエリアもあるようですが、我々としては段階的にこういった自粛解除というものはすべきであろうと、その地域ごとの状況によって取り組むべきであろうという判断はしておりました。市の独自の判断と国の GoTo キャンペーンの組み合わせをしてより利用しやすい方法を使っただくという判断をさせていただいたところでもあります。私からは以上であります。

○秘書広報課長

市長からの発言は以上になります。これ以降の進行につきましては幹事社にお渡しをしますのでよろしくお願いいたします。

○幹事社

今市長から説明のあった宿泊事業者緊急支援策第2弾についてなのですが、連日テレビでも新聞でも感染者の数について、さっき言われた通り地域によっては、特に大都市圏、あるいはそこから波及した形で全国に広がり、何をもって第2波とするかは疑問があるとは思いますが、日々状況が変化する中で、国と自治体との認識の差とか、苦慮している側面もあろうかと思うのですが、今市長の説明を受けて、仮に東北地方に第1波のような形で感染者が増えてくるような状況に至った場合に、また見直しというようなこともあるのですか。

○市長

今の状況ですと、8月いっぱい市の第2弾のキャンペーン、これは実施していきたいと思っております。ただ、その状況、東北、新潟によって感染者の推移がどうなっていくかについては、その段階になってみないと状況を判断するのはなかなか難しいのかなと思っております。状況によっては当然、そのエリアからの利用者をお断りしなければならないという状況も出てくる可能性もあるのではないかなと思っております。

○幹事社

例えば8月だとお盆というのがあると思うのですが、首都圏辺りから親戚が来るなどが想定される訳なのですが、今回の第2弾は8月いっぱいということで、来てすぐ感染者が出るなどということは無いとは思いますが、そういったお盆の期間の注意というのは何か議論などはあるのでしょうか。

○市長

結局 GoTo キャンペーンでなくても、今お話しありましたように、お盆には人の移動が盛んになるということがあります。それで何よりも重要なことは感染予防対策を

しっかりと、それぞれ個人でもとっていかなければならないし、また、そういった接客と申しますか、ご利用いただく事業所においてもしっかりとした感染防止策をとっていただかないと、まずそこが第一の前提になります。感染予防、米沢市で言うならば「びしゃもんプロジェクト」、これはJC（米沢青年会議所）の皆さんやYEG（米沢商工会議所青年部）の皆さんが中心となってやっていただいておりますが、今日の定例庁議の中では、そういったことに任せるのではなく、しっかりと行政も関わって、これからの感染予防を徹底するようにと、指示をしたところであります。

○幹事社

感染予防を徹底するキャンペーンや行動を起こすということですか。

○市長

今申し上げた「びしゃもんプロジェクト」、これはそれぞれ感染予防に対して、どのくらいの基準でやっているかということが3段階くらいに分かれている訳ですね。そういったものを、出来れば全て感染防止の項目が、18項目ほどあったようでしたが、そういったものを実施しながらご利用いただけるような環境づくりというものについてはしっかりと取り組むようにということで、何らかの格好で市もこの「びしゃもんプロジェクト」と連携しながらやらなければならないのかなど、そういったことで注意喚起をより一層強くしていきたいと考えております。

○幹事社

先ほど宿泊事業者業界の状況なども報告あったのですが、この支援事業に対する宿泊事業者の期待感というのはどのくらい伝わっているものですか。

○市長

期待感と申しますと。

○幹事社

宿泊業者からのキャンペーンに対する期待というのはどのように伝わっていますか。

○市長

先ほど申し上げましたように、第1弾の「宿で癒されてキャンペーン」は、本当に施設側から、事業者側からしてみても「大変良かった」と。ただ、この期間中だけで終わるのかなど、当時から懸念されていた部分もあったようでした。そういった中で、第2弾は少し枠を広げてということで、県外からのご利用者も米沢に来ていただくようにという対応が第2弾であります。その他にも山形県でもこういったキャンペーンをやっておりますので、そういったものと併せて、GoToキャンペーンもそうなのでしょうが、業者、事業所からしてみれば大変期待をしているというのが現状であるというように判断しております。

○幹事社

ありがとうございます。ほかに質問あればお願いします。

○記者

市長としては、特にお盆の時期に、市民に息子や娘たちを帰省させないようにして

欲しいというような呼びかけを米沢の市民に向けてするお考えというのはございますか。

○市長

今まで学生さんとか、そういったものについてはそれなりの対応をしてきたと考えておりますが、お盆というのは先祖の墓参りとか色々そういう部分もあって、それを規制して「避けてください」ということはなかなか言えないなと判断しております。

○記者

観光に関連して、これは市だけの話ではないのですが、まだ決まってないかとは思いますが上杉まつりの代替の事業というもので今の時点で何か計画など進んでいることがあれば教えてください。

○市長

5月ゴールデンウィークの上杉まつり、武禊式、川中島合戦は、秋に順延するという方向で来たのですが、今日の状況を見まして、中止という判断をいたしました。それで、それに代わるものということで、四季のまつり実行委員会でもこの旨表明をさせていただきまして、何らかの代替事業を考えていきたいというお話をさせていただいたところでもあります。それを受けて、関係する四季のまつり実行委員会の主だったメンバーの中で、何をするかという検討をしているところでもあります。3密を避けながらやることができるかと、その時にコロナの状況がどう変わっているかということもあると思いますので、その辺との整合性もとりながら、何ができるのかという所を検討しているという状況です。やりたいなという考えはありますが、具体的に「こうやります」というところまでは至っていないというのが現状です。

○記者

先ほど市長が今日の庁議で指示されたというのは非常に良いことだと思ったのですが、その前提に「びしゃもんプロジェクトだけに任せない」というようなことをおっしゃいましたが、具体的に市はどのようなことをするのですか。

○市長

簡単に言いますと、「びしゃもんプロジェクト」はJCさんなり YEGさんを中心に取り組みを実施していただいておりますが、そこだけでなく、米沢市もそこに入って、しっかりとそういった感染対策が取られているか、そういったことも連携してしっかり取り組むということに尽きるのではないかなと思うのです。

○記者

それは、「びしゃもんプロジェクト」が自己評価による三ツ星で、自己評価で星をつけてそれをポスターに貼ったり、ポスターで PR するというものだったのですが、それに対して市も何らかのお墨付きというか、飲食店が自己評価でやっている部分を市の方が確認に回って本当にそうなっているかそういうことまでするということですか。

○市長

確認というところちょっと語弊がありますが、やはりお互いに気を付けようということ

で、県は県なりにそういった取り組みもやっておりますし、また山形市もステッカーとかそういうものでやっているということでもあります。そういったものも含めて、米沢市も主体的に感染防止の取り組みについてしっかりと、色々な業者がやっている対応を「びしゃもんプロジェクト」のメンバーだけではなく、市も加わってより強化していこうという取り組みで考えてほしいということを今日指示したということでもあります。

○記者

市としてやっている感染防止対策の「見える化」のような感じで、ちゃんと市もやっているんだというのを見えるような形で取り組みをしていくということですか。

○市長

やはり、感染者が出ていたころ、つい最近も1名出たわけではありますが、慣れてきているという状況があっては良くないなということです。まず市の職員がしっかりとした対応をとることをもう一度取り組む、そういう視点が必要であるという意味で市の職員に警鐘を鳴らすというようなことです。実はその前弾として、市役所内部での感染対策をよりしっかりと取り組んでいくということが今日定例庁議で報告があったものでしたから、市が取り組むべきこと、市役所として職員が取り組むことと、あとは市内の皆さんに感染防止というものをしっかりと取り組んでいただくということを、「びしゃもんプロジェクト」のような取り組みと連携をしてほしいと、そういう内容でお話をさせていただいたところでありました。

○記者

先日山大生が感染されたというニュースがあったのですが、それに関して米沢市では記者会見とか特になかったのですが、「こういう事例がありました」というのは情報としてはあった訳ですが、米沢市としての感染の対策本部というのは開催されたのでしょうか。

○市長

あの段階では対策本部は開催しておりません。

○記者

先ほど市長さんから、最近ちょっと緩みがあるのではないかというお話あったのですが、最近の米沢市の動きを見てみると、対策本部もここ2か月くらい開かれているような気配もありませんし、この間の山大生の件でも記者会見もないし、相当春先と状況が違うとはいっても、市の対応が春先と違うなという印象を受けるのですが、現状対策本部はどのような方向性にあるのでしょうか。

○市長

はい。対策本部につきましては、今日まで取り組んできましたが、最初の出発点については、コロナが蔓延しそうだという状況を踏まえて、米沢市としても感染防止をしっかりと取り組んでいかなければならないということから、県内で一番多く感染者を出した地域でありますので、その度にどのような対策を進めていくかと、そして市民の皆様にごお知らせをしていくかということが対策本部の使命であったという

ように思ってきました。ただ今日までそういった状況が、山大の例があった訳であります、あの段階でも県の発表がおそらく夜遅くなるであろうという判断などもあったものでしたから、そういった状況をしっかりと本部員が認識をしながら、対策本部までには至らなかったというような状況であったというように思っております。ただ、今ご質問にありますように、少し緩みが出てきているのかなというように思っています。ただこれは我々もそうではありますが全体的に、市内全体にそういった緩みが出てくると、今感染者が多く発生している地域、そして人の移動が多くなる時期にもなってきておりますので、もう一度しっかりと取り組んでいこうというようなところで、今日の定例庁議の中でもそのような話をさせていただいたところです。決して対策本部をないがしろにしている訳ではないのですが、今後とも、これから色々なコロナ対策、GoTo キャンペーンもそうでありまして、米沢市のそういったキャンペーンもそうでありまして、その他のことも含めまして、しっかりと、なにも無いから開かないのだということではなくて、色々これからの状況等も判断しながら対応をしていかなければならないのかなと、今お話をいただいて、これからも取り組んでいきたいと思っております。

○記者

やはり東京とか大阪を見ますと、トップリーダーの姿勢が対策活動に大変大きな影響を及ぼしていると思います。市長のリーダーシップに期待したいと思います。もう一点ですが、他市では観光事業者以外、大きく売上げが落ちこんだ事業者に対して支援をしています。例えば上山市とかですね。そういったところですが、なぜ観光事業者だけなのかという声に関しては、やはり産業全体に与える影響が大きいということとは分かりますが、それ以外の大きく落ち込んでいる事業者もいる訳で、そういったところにどういった支援をされるのかという所もすごく関心があると思います。その辺はいかがでしょうか。銀行からお金を借りてください、それに対する利子の補給はしますというのは分かります。

○市長

それぞれ観光のみだけでなく他の業種の方にも色々な支援があったということをご理解いただけたと思います。ただその業種によって、今まで観光関係にそういった支援は、10万円、20万円、30万円程度の助成金であった訳であります、業種によってはそういったものだけでなくということでは、国の政策であったりとか、持続化給付金とか色々あったというように思うのです。それに該当するかしないか、そして特に観光業につきましては、米沢市もある意味で観光都市としての位置づけもありましたし、そういった対策として地域経済をどのように維持していくかという視点も考えた場合に、助成をするのではなくて、そうやって多くの人に地域に、この米沢に来ていただくというのがこのキャンペーンの趣旨であるというように思っておりますので、そういったところにまず力を入れてきたというように私は理解をしております。ちなみに商工振興資金などは相当な額になっておりますので、これも2億円まで県が引き上げたというようなことで、市の持ち出し分なども相当な額になりま

すので、そういった支援もやっているということはご理解をいただきたいと思います。

○記者

先日の議会で、遊具施設というか、子供の新しい施設というか、すこやかセンターを拠点にというのは事務方からの報告はあったかと思いますが、昨年の市長選の公約の大きな一つであったというように思いますので、市長としての施設への想い、建設計画予定について改めて教えてください。

○市長

予定については、任期中にということをお願いしてまいりました。そういった中で今まで色々この遊具施設を建てるにしても、施設もそうありますが、子育て相談をしやすいところとか、屋外でも遊べるようなところがあった方が良くとか色々な議論があった訳です。そういったことを考えて、公約どおりに任期中に出来るのであればということで、今のアクティエのところで、そこは今申し上げたようなすこやかセンターもございまして、また前の庭関係などもあって、屋外での色々な活動もできるというようなところで、適切なエリアではないかなと思って何か所か検討した結果そういったことで方向性を示しながらの中で検討してきたということで報告をいただいて、その旨議会の方に報告をしたというように聞いております。

○記者

どうもありがとうございました。

○市長

どうもお疲れさまでした。

○秘書広報課長

ではこれもちまして令和2年度7月の定例記者会見を終了いたします。本日はありがとうございました。